

# 未来美術専門学校アート科

## 石関サエ

サエはね、ほんとすごい。はっきり言ってごくたまにこういうやつっているんだよ。一発でもってくやつ。なまじ上手かったり、なまじちゃんとできたり、なまじ考えたり、なまじ結果を残せるやつにとっては一番怖い存在。一発で超えちゃうから。だけど、そういうやつて世に出ないように、杭を打たれるようになってるから、世の中うまいことできてるなって思う。だけど、本人はそんなのまったく目もくれず、いけちゃうから。ほんとこんな媚びないやつ、そうはいないよ。未来美術専門学校のやつらはサエのすごさを認められるんだけど、世の中はサエがすごいって気づかないようにしてるだけ。サエがすごいってことに気づけるのが未来美のすごいところだな。作品が評価されなくても、そんなの一切気にする必要はない。お前の勝ちだ。サエはナイフ、凶器。戦慄の凶器だね。

## 奥平 聡

俺ほんとに奥平としゃべってんのすごい好きなんだよ。奥平はね、ほんとめんどくさいやつだよ。めんどくさいっていうか超■■■■なのね。子どものような超■■■なハートを持ち合わせていて、それが笑えるんだよね。アートをやりたいって作品を■るんだけど、美術畑を歩んできたわけじゃないからイメージの出発点がアートの現場にはない観点ですげー■■■■■■■■だよ。ちょっとぎょっとする。今回のオ■■■■も変じゃん。いそうでないよ。だけど、奥平はビュアすぎてすーぐビピっちゃうんだよ。一回ネガティブイメージが迷い込んでくると一気に■■■が膨らんで、物事を全部ネガティブに捉えちゃうんだよ。それをいつも■■■■■■■■って言うてんの。ほぼお前の■■■なんだから。それでも結構ぶっこわれたから、■い顔してる。期待大だよ。奥平の一番いいところはさ、それら全部ひっくくめて■■■■■■が「モテたい」みたいなところにいつているところ。すごい■■■くさくてぜんぜん理論派じゃないんだよ。心の人間だ、奥平は。※■■部分は本人の希望で黒塗りしています。

## 川上遙か

遙かはね、まず何がヤバいって、未来美術専門学校アート科の告知文あるじゃん。あれだけを手がかりに受講したってこと。そこに踏み出す鋼の根性と勇気を天然で相当もちあわせていて、だから、ああ見えてガンツとゴリツとしてるのよ。すごい頑固なところあるし。でも、外のことをいろいろ受けとる面積をすごく広く用意しているの。だから、いろいろ速いんだよ。言葉を頭で理解して胸まで落ちる速度が速いんだよ。ようは貪欲なんだよね。ライティングする波をちゃんと見ていて、しかるべき波にライティングするのがあいつの才能っぽいな。ひとたびライティングすれば、変な山とか谷を自分でもうけずに、すこーんすこーんすこーんと状況が乗っかっていく。知らないことへの好奇心が強くて、物事への見境が少ない。だから……いわゆる幸せな女って感じはしないんだよ。遙かはね、超期待大だよ。いい感じ。いいの。遙かはいいの。いいんです。

## 木村奈緒

奈緒はな、本当になんていうか惜しいんだよな。惜しい、惜しいんだよ。たぶんあともう少しね、体力があるとそれだけで色々広がるの。体力がないと精神力も萎えるじゃん。体力がもう一息あると精神もつながるし、締めというか詰めのところにもう一歩踏み込めるんだよ。すげー俺、福知山線の展示とか好きよ。文字が多いと言われようと、伝えたいんだっていう、その気持ちを隠せない奈緒が素敵なのよ。福知山とか水俣とかお前が題材にしてることにはグツときてるよ。人が忘れてることにスポットをあてる根性は、それがお前の本質な感じなんじゃないかな。お前がやんなきゃ知りやしねーし、忘れてたよ。そういうところにスポット持つて行くのは、お前の素敵なおとこで、不可欠でしょ。期待大だよ。※今回、木村は4/10のクロージングトークでの司会と本用紙の作成をもって作品とします。

## 遠藤一郎(講師)

未来美術専門学校アート科はさ、それぞれやってることもフィールドもみんな違うから、作品を作って展示するっていう形態がみんなにあうわけじゃないじゃんか。今回も初めて作品を作っ発表するやつの方が多いわけだし。けどまあ、TAV GALLERYにいい機会を与えていただいたわけだし、フォーマットは合わなくても表現してみたら、つくりもんにはそいつが出るからね。で、やってみたよね。アートのとこか、展覧会的にとこか、そんなのは全然知らんけど、まず一発で分かる作品がなんもない。これがやっぱり成果出てるなって思った。まず分からないっていうのはすげー強いし、面白い。比べられないわけだし、ぱっと見わかられてたまるかみたいなさ。ひとつの作品を通してのコミュニケーションという意味では全然な感じかもしれないけどさ。いろんなものがグローバル化されて平坦になってるでしょ、今。人の個性とか心とかも均一化されているなかで、ぜんぜん分からないもの、違うものがあるっていうのはすげー重要なんだよ。コミュニケーションが重視されて、コミュニティのなかで安心を得る——日和見っていう言葉は古臭すぎるかもしれないけど——そういう社会では、一個人が弱体化していくよね、やっぱり。そうではなく、本当は人ひとりはずっと強い。このコミュニケーション、コミュニティの世の中だからこそ、一個人の爆発的なもののぶつかり合いがとても重要。それがもっともって世の中を面白くするし、慣れ合いのコミュニケーションするくらいなら、ぶつかり合いのコミュニケーションの方がよっぽど強い。そういう意味で、今回の展覧会は未来美術専門学校アート科の成果が出ている。あとはどうぞ好き勝手に言ってください。あーあだよ。

## 一十三

一十三はね、根性あるんだよ。根性って言っても古くさいほうの根性だな。それで、一十三は可愛いんだよな。でも、俺があいつの好きなのは、おっさんくさいところ。おっさんくさいというか、おばちゃんくさいというか、やっぱなんかちょっと古い。何がそうさせているのかわかんないんだけど。古いつていうところだけかいつまむと嫌な言い方だけど、一十三ね、頭いいです、とても。なぜか若くして行くところと引くところの絶妙なところを分かっていて、そこを突いてきたりするんだよね。プラス、一十三はひるまずやっちゃえる。今回だってやっちゃえてるし、よく勉強してると思うな。一十三はビジョンがはっきりしてんの。もちろん、どうしようかかって悩んだらうけど、今回も見れるように展示してきてるっていうのは自分で調べたり勉強したりしてきてるんだと思うわ。自分のイメージしたビジョンをひるまずやっちゃうね。一十三の今後はよくわからない。

## 仲田恵利花

えりかはね、すごい化けると思う。えりかは、世の中だったり、家族を含めた社会だったり、あらゆる要素のチリひとつに反応するくらい敏感なやつだから、本人が悪いんじゃないけど、自分のなかに劣等感があって、そのために自分に対しても妙な態度をとっちゃって、自ら自分を圧縮しちゃうって感じなんだ。えりかは細くてすごいちっちゃいけど、その圧縮がボンッてなったら、10メートルくらいの人に膨らむくらい、あの小さい体に圧縮されている。本当は大きい人間なんだ。まだ化ける途中だけど、化けてきてる。本人もそれを必死になっているしね。ホント化けるのが楽しみだ。でも大丈夫、ちゃんと化けます。

## 中村留津子

るつはね、たとえば表と裏だったり、愛と憎悪だったり、天使と悪魔だったり、大人と子どもだったり、可愛さだったり憎らしさだったり、ウェットだったりドライだったり、あらゆるそういうのをね、絶妙なバランスであわせ持ってるんだよ。その両方のせめぎあいみたいなところで、光がばしゅん、ばしゅん、ばしゅんと小爆発していくんだ。せめぎあいって言うても葛藤しているわけじゃない。るつはね…憎らしいんだね。本当に憎いわけじゃなくて、両方あわせもったその憎らしさはすごいセンスでもあるわけよ。それはまれに見る魅力なわけよ。いろんな要素がいろいろ絡まっちゃうから、本人もすげー悩む。でも、悩みもろとも作ったり描いたりできるようになれば、もっと激しくなる。そこに乗っかればあいつ速い。行く。そんなとこかな。

## ぶーにゃん

ぶーにゃんはね、一見何考えてるか一番謎のように、とっつきにくく見えるんだけど、実はどシンプルなやつで、めっちゃくちゃ可愛い乙女のようなやつなの。諦めがすごい早くてすぐ自暴自棄な感じになるけど、いいのはね、一生懸命になれるんだよ、あれで。好きなものにすげー一途なのね。信じてるものにも一途だし、騙されているものにも一途なんだよ。ディスリも一途。ぶーにゃんは、ビジュアルは決して派手でも目立つわけでもないけど、恐ろしいまでの無視できないオーラを持っている。動きもすげースローじゃん。けどたくさん人がいても結構目立つ。それは頑張って作れるもんじゃない。ぶーにゃんにとって功を奏するのか奏さないのか分からないその天性がもっと生かされたらすごいカリスマ的にもなるし、あざとくもなる。ぶーにゃんは、カリスマ的な何かに変貌する何かを持ち合わせてる。知らねーけど。※今回ぶーにゃんは、4/9(土)のイベントを作品として発表します。